

業況良化もマイナス圏 20円パチスロ

ゆるやかに

(株)エンタテインメントビジネス

総研はこのほど、第54回パチンコ景気動向指数(DI) 調査報告書

(7～9月)をまとめた。収益・

売上・粗利などから判断される全般的業況はマイナス21・9ポイント

年10～12月)以降8期連続マイナス圏で推移している。(表1)

事業規模別では、小規模事業者

トで前回より4ポイント良化した(第47回調査(一昨

(1～3店舗)がマイナス41・2ポイント(前回比0・3悪化)、中規模事業者(4～10店舗)がマイナス20・8ポイント(同4・2良化)、大規模事業者(11店舗以上)がマイナス12・5ポイント(同4・2良化)だった。中規模事業者が4期連続で徐々に上向いている。

パチンコ、パチスロ別では、パチンコの稼働状況はマイナス31・5ポイント(同5・6悪化)で2期連続の悪化となっている。パチスロの稼働状況はマイナス21・9ポイント(同0・3ポイント良化)だった。パチスロは4期連続で良化に動いているが、パチンコとともに6期連続でマイナス圏にあることには変わりがない。(表2)

依然続く「販売の縛り」

貸玉/貸メダル料金別では、4円パチンコの稼働状況はマイナス51・4ポイント(同1・1良化)、20円パチスロはマイナス25ポイント(同8・3良化)で、とくに20円パチスロは調査開始以来3期連続で緩やかな上昇傾向にある。一方、低貸のパチンコ、パチスロの稼働はともにプラス圏だった。低貸パチンコは7ポイント(同5・

表1 全般的業況

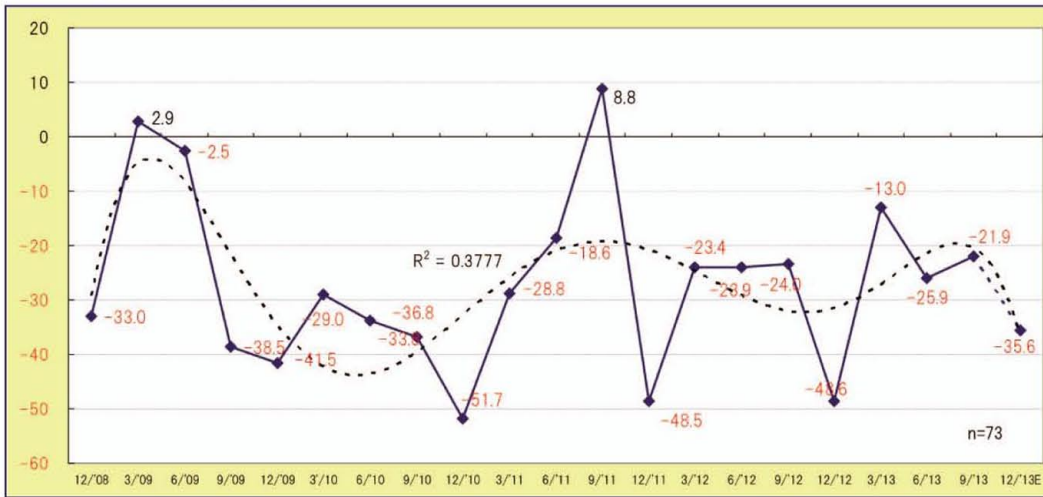


表2 稼働状況 (パチンコ・パチスロ別)

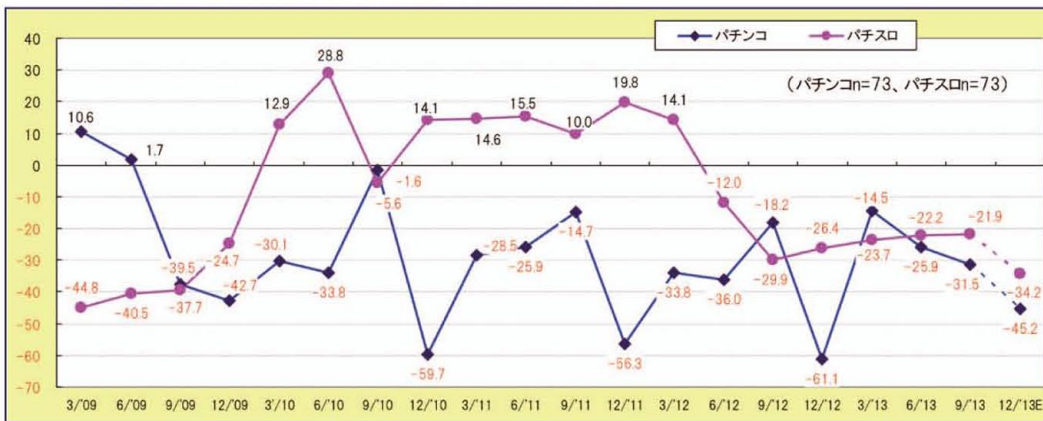


表3 稼働状況 (貸玉料金別)



8悪化)、低貸パチスロは6・1ポイント(同7・6良化)だった。低貸パチンコは2期連続の悪化。低貸パチスロは前回わずかにマイナス圏に落ちたが、今回はプラス圏に再び咲いた。(表3)

事業規模別に経営上の課題(複数回答)を見ると、小規模事業者は「同業者との競争激化」「メーカーの遊技機販売の縛り」がともに

50%弱でトップを占めた。中規模事業者は「メーカーの遊技機販売の縛り」が46%でトップ、「同業者との競争激化」「人手不足・人材確保」「設備・運営費の増加」が42%で続いている。大規模事業者は「人材育成・教育」が65%でダントツの1位。次いで「設備・運営費の増加」(53%)、「同業者との競争激化」(47%)となっている。

消費税増税に関する調査

「現行望ましい」が半数 参加人口の減少を危惧

特集として、消費税増税について調査した。来年4月に消費税が8%に引き上げられるのに伴い徴収方法の変更が考えられるが、86%の企業が「決めていない」「わからない」と答え、「徴収方法を決めている」と答えた企業は14%だった。(調査時点・9月19日～10月3日)

望ましいと思う徴収方法については、「現行方式(内税)」を考えている企業がちょうど半分を占めた。外税方式では、「貸玉個数徴収方式」が11・1%という結果となった。(表4)

消費税増税で最も危惧すること

については、「可処分所得の減少とともに余暇費用が減るため、遊技参加人口が減少する」が47・9%と最も多く、「稼働低下を補うため、粗利率が上昇する」22・9%、「パチンコ・パチスロに使う1日当たりの金額や来店頻度が減少する」20・8%、「4円貸し、20円貸しから低貸しに稼働が流れる」8・3%と続いた。(表5)

「認識に差異を感じる」

その他、消費税や現状・先行きに関するコメントは次の通り。「現状の内税方式での一物一価、

等価交換の認識が、行政とホール及び組合とで差異を感じる」「関東・中規模業者」

「消費税増税は企業にとって重い負担だが、国家財政の破たんがちらつく今、必要だと思う」「関東・中規模業者」

「徴税方式を業界全体で決めてほしい」「(四国・大規模業者)」

「消費税より、4円パチンコの稼働を維持するために『等価14円』を変えていくか、パチンコとパチスロは異なる遊技性として『二物二価』を認めてもらうかを考えるときに来

ている」「(関東・中規模業者)」

「もっと現場の声を聞いてほしい。増税による設備投資を見越した動きも必要になるので、消費税の問題は早い決着を望む」「(近畿・大規模事業者)」

表4 8%時に望ましいと思う徴収方式

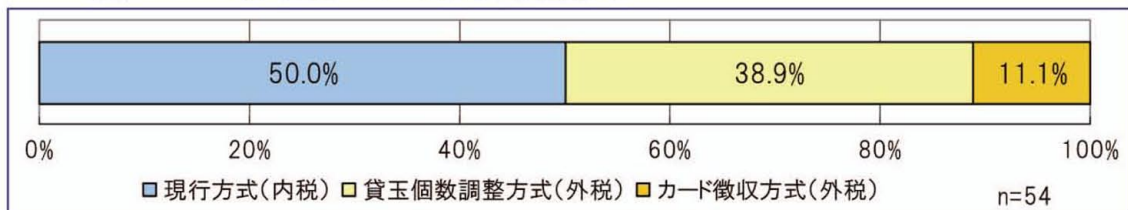
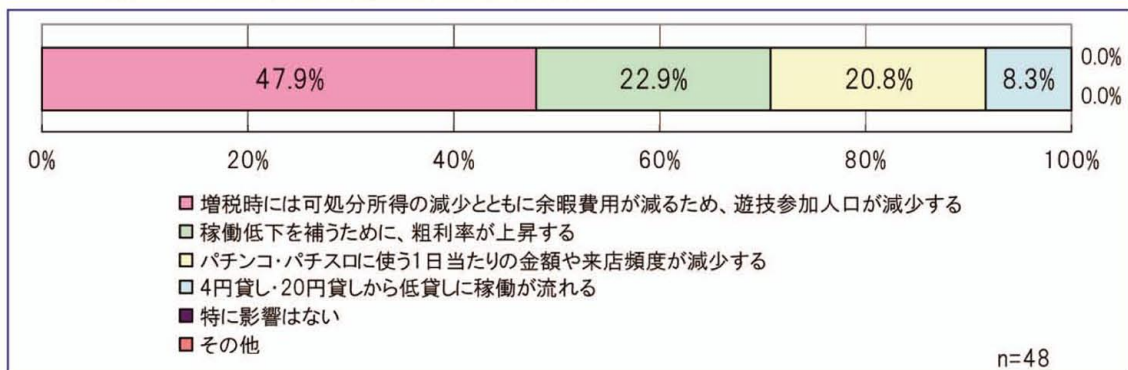


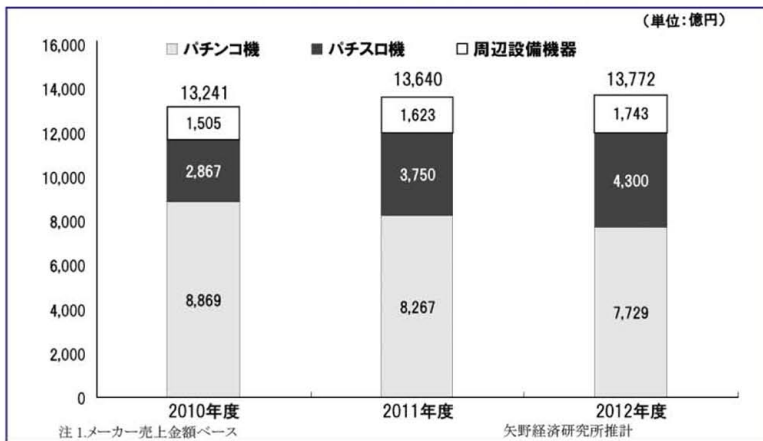
表5 消費税増税で最も危惧すること



模事業者)

「4円パチンコの落ち込みがひどい。パチスロもAKB、北斗以降が良くなく低下気味だ。コストを下げてでも遊技機購入費が下がらないと無理だ」「(東北・小規模事業者)」

図1 パチンコ関連機器の市場規模推移



2012年度関連機器市場 矢野経済研究所

パチンコ規模の縮小続く

(株)矢野経済研究所は4月～7月にパチンコ関連機器市場の調査を実施し、「2013年版パチンコ関連メーカーの動向とマーケットシェア」を発刊した。その内容の一部を紹介すると――。

パチスロは鈍化も好調

2012年度のパチンコ関連機

器の市場規模は1兆3772億円（メーカー売上金額ベース）となり、前年度比101%、132億円のプラス成長と辛くも前年度と同程度の市場規模を維持した(図1)。

パチンコ関連機器市場の過半を占める、2012年度のパチンコ機市場規模は7729億円（メーカー売上金額ベース）、前年度比93・5%となった。パチンコ機市場は4期連続のマイナス成長となり、2013年度以降も復調の兆しは見られない。一方、2012年度のパチスロ機市場は前年度比114・7%の4300億円（メーカー売上金額ベース）となり、4期連続のプラス成長となった。2012年度初頭から回復が鈍化したと言われつつも、依然として好調さを維持している。

周辺機器は7・4%増

2012年度の周辺設備機器市場規模は1743億円（メーカー売上金額ベース）、前年度比で107・4%となった。引き続きホ

ールでのパチスロ機部門の業績好調の影響が大きかったものといえるが、新規出店数自体も2010年度の水準まで回復したことから、パチスロ機部門に関連する設備機器のみでなく、ホールコンピュータ、景品POSを除く全ての設備機器が前年度プラスの業績となった。しかし、新規出店数が今後急激に増加することは考えられず、今後も横這い程度の推移が続くと予測する。

巨艦店増も全体頭打ち

なお、昨年から今年にかけて遊技機設置台数1000台以上の巨艦店が再び増加しており、案件あたりの売上規模が増大傾向にある点も市場規模の維持に貢献している。しかし、新規出店数が回復したとはいえず、以前に比べれば少ないままであり、案件規模が増大するも、周辺設備機器メーカーの競争環境はより厳しくなっている。

また、ここに来てホールでのパチスロ機部門の業績がピークアウトしつつあるとされ、今年度以降はパチスロ機販売台数も含め、パチスロ関連設備の需要も減退していくものと考えられる。一方、パ

チンコ機関連の設備機器に追い風があるかといえそうではない。新規出店の増加などによって周辺設備機器の各市場が前年度を超えたが、パチンコ機部門の業績低迷は下げ止まる様子はなく、今後さらに厳しくなると見られている。

補完関係は機能不全に

パチンコ産業は過去からパチンコ機、パチスロ機の間での揺り戻しを繰り返して市場規模を維持していた。その動きは年々短期化しているが、パチンコ機が悪ければパチスロ機で稼ぐ、またその逆もしかりで、市場全体としては規模が維持されるものと、楽観的に考える風潮にあった。しかし、この数年では揺り戻しが起こるたびに市場全体が縮小するという負のスパイラルに突入しており、この補完関係はもはや機能不全に陥っている。この数年間、低迷するホール業績を支えたパチスロ機部門もついに縮小基調に突入したとの見方が強い。今のパチンコ機部門にそれを補う余力がないのは明白であり、今年度以降、パチンコ関連機器市場は大きな転機を迎える可能性がある。

中部遊商が実機解説

セキュリティ対策部会

日遊協中部支部セキュリティ対策部会は9月24日、名古屋市のアリス愛知で中部遊商との情報交換会を開いた。日遊協から山口悟支部長、内ヶ島隆寛部会長ら24人が参加し、中部遊商からは船戸良徳セキュリティ対策委員会委員長ら3人が参加した。



実機を使って点検を説明

中部遊商側が、中古パチンコの実機を使って、27項目の点検実施要領に基づいて点検を実演しながら解説した。日遊協側からの質問など点検の実態などについて理解を深めた。

第1回親善ゴルフ大会

日遊協東北支部は10月4日、宮城

県富谷町、富谷カントリークラブで

「第1回親善ゴルフ大会」を開いた。竹田隆宮城県遊協理事長ら招待者21人を含めて36人が、秋晴れの下で熱戦を繰り広げた。日遊協からは篠原弘志専務理事、谷口久徳支部長らが参加した。結果は、山野英雄宮城県遊協副理事長がクロス90、ネット72で優勝した。

会員・業界消息

●住所変更

▼株式会社バルテック

関西事業所(旧・大阪事業所)

神戸市中央区磯上通

5丁目1・24 三光ビル3階

TEL078・261・8771

FAX078・261・8730

10月15日

▼株式会社ジェイピーエス

大阪市西淀川区福町3丁目1・48

TEL06・6477・8221

FAX06・6477・8222

10月7日

警察人事

神奈川県警人事(9月9日)生活安

全部理事官兼生活安全総務課長・

生活安全特別捜査隊長扱(生安部

理事官兼刑事部理事官)牧智明▽

川崎臨港署長(理事官兼生安総務

課長)森一

DATA SPOT

パチスロ、29か月続いた前月比増が途切れる

全日遊連は10月22日、店舗数、遊技機台数の2013年9月分を発表した。店舗数は前月比で大幅に39店減となり、1万994の店舗数は、年間ペースだと昨年9月(1万1199店)と比べて、この1年間で205マイナスで、低下傾向が加速している恐れがある。

遊技機では、パチンコが1年間でマイナス4万8898台(昨年9月281万983台)と下がり続けている。一方パチスロ機はプラス5万8019台(昨年9月141万2650台)と相変わらず前年比増を保っているが、前月比では473減となり2011年4月から29か月続いていた前月比増が途切れた。

<注>店舗数、及び遊技機台数は各月の末日現在の数。表中の「その他」はアレンジボール、じゃん球、スマートボールを意味する。

全日遊連加盟店舗数・遊技機台数

平成24年	営業店舗数	新規店舗数	廃業店舗数	休業店舗数 (当月発生分)	遊技機台数			総台数
					ぱちんこ遊技機	回胴式遊技機	※その他	
1月	11,171	17	34	118 (11)	2,805,774	1,441,076	156	4,247,006
2月	11,137	7	37	119 (11)	2,738,348	1,441,295	156	4,239,799
3月	11,089	8	52	125 (20)	2,786,704	1,444,068	156	4,230,928
4月	11,093	37	41	113 (12)	2,789,874	1,454,733	156	4,244,763
5月	11,069	13	30	116 (18)	2,780,418	1,459,448	156	4,240,022
6月	11,040	20	43	123 (23)	2,773,587	1,459,781	156	4,233,524
7月	11,042	18	19	115 (10)	2,773,309	1,466,536	156	4,240,001
8月	11,033	17	35	107 (7)	2,771,022	1,471,142	156	4,242,320
9月	10,994	6	43	110 (12)	2,762,085	1,470,669	156	4,232,910

貯玉補償基金加盟状況

	店舗数	前月比
北海道	243	-1
東北	537	0
東京	583	0
関東	1622	+2
中部	503	+2
近畿	893	+7
中国	289	+3
四国	155	+2
九州	623	0
全国計	5448	+15

(2013年9月30日現在)